
名前を呼んで

宝玉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名前を呼んで

【Nコード】

N4265F

【作者名】

宝玉

【あらすじ】

好きな人に名前を呼んでももらえない。いつも変なニックネーム。本当は、私の名前を優しく囁いて欲しいけど……。

お前と会って、早四年

2年のとき引越してきて

3年のとき一回好きになって

4年のときけんかをして

5年のとき席が隣になって急に意識しはじめて
今、もう1度好きになった。

今日は雨が降ってる

お前の心、痛んでるんだね。私も辛いよ。

今日は晴れてる

お前、機嫌が良いんだね。私も機嫌良いよ。

今日は台風だ

お前の心が荒れてるんだね。少しは押さえないと。

天気にはめて、楽しんでる

今日も名前、呼ばれなかった

……お前に笑ってもらいたくて。

お前が笑っていれば、私は何でもできるよ。

今日の席替えて、修学旅行のときの班ごとになった

私は4班 お前は5班

後ろにお前がいるって思ったから

私はこの席にしたんだよ

今日も名前、呼ばれなかった。

席替えする前、隣の女の子と仲がよかったね
その隣に私がいるのに
その子のことは名前で呼んでいるのに
なんか嫌な感じ

私とお前に壁が出来てるみたい

私はこんなに好きなのに

どうして？ 私を見て？

我が儘なんていえない

私とその女の子は仲が良いから

それと、もうひとつ。

その子は、私の好きな人を勘違いしているから

ずっと、ずっとじゃれてる2人

私はそれを見て悲しくなるだけ。

前はもっと仲が良かったのに、なんでだろ？

誰も答えてなんか、くれなかった

私の気持ちを分かってくれるのは、あいつだけだから

本人に、言えるわけないよ

こんなにも愛したのは、お前だけなんだから
この気持ちを知られたら、私……

本当にあいつが欲しくなってしまう

今日のあいつは笑ってた

ずっと、うるさいぐらいに。

そつえば授業中、私に好きな人を聞いてきた

答えられるわけ、ないじゃん

言って、何になる？ 分からない。付き合えらとでも言うのか？
だったら、いいけどな

今日も、明日も、明後日も。

ずっと笑っていて欲しい。

私のこと嫌いでも構わない

笑っていて欲しい

たった一つ、ずっと前から願いがあつた

私の名前を呼んでもらいたい

優しく、その低い声で。

私もお前の名前を叫ぶから

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4265f/>

名前を呼んで

2010年10月21日21時12分発行